

八戸大学

平成 22 年度 大学機関別認証評価
評価報告書

平成 23 年 3 月

財団法人 日本高等教育評価機構

I 認証評価結果

【判定】

評価の結果、八戸大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。

【認定期間】

平成 22(2010)年 4 月 1 日から平成 29(2017)年 3 月 31 日までとする。

【条件】

- ①大学の教育研究目的を達成するために必要な財政基盤を早急に改善し、平成 27(2015)年 7 月末に認証評価時以降の財務状況に関する報告書（根拠資料を含む）を提出すること。
- ②新耐震基準を満たしていない建物については、早急に耐震診断を行い財務的な裏付けなどの実効性のある耐震補強計画を策定し、平成 27(2015)年 7 月末に進捗状況を含めて報告書（根拠資料を含む）を提出すること。

II 総評

大学はミッション系大学ではないが、カトリック精神に基づいた「神を敬し、人を愛する。(以下、略)」を建学の精神として掲げており、この言葉は学生や教職員をはじめキャンパス内のすべての者の目に触れるよう、いたる所に掲示されている。教育理念や大学の使命・目的も過不足なく学内外に示されている。

教育研究組織については大学の使命・目的を達成するための組織が適切に構成され、組織相互の関連性も保たれている。特に附置機関である総合研究所が八戸市内にオフィスを設け、産・官・学・民の連携拠点としていることは特筆される。教養教育については、組織上の位置付けや責任体制を明確にすることが望まれる。教育に関わる意思決定過程において部長会の役割が不明確であり、また、委員会によっては規程が未整備である。

教育課程においては、両学部とも教育目的を十分に反映した構成となっており、単位修得や卒業要件などに関しても、厳正かつ適切に運用されている。「学生による授業評価」や「学生による自己評価」など、教育の達成度を点検・評価するための措置が効果的に講じられている。

アドミッションポリシーは学部ごとに明確にされており、入学者選抜も多様な入試種別を設けて適切に行われているが、ここ数年にわたって入学定員の充足率は低迷を続けており、その結果、大学の財政基盤を脆弱なものとしている。定員確保のための抜本的な措置が望まれる。学生支援センターや「カレッジアドバイザー」などの制度によって、学生のための学習支援は適切に行われているが、退学者・除籍者の割合が高いので、是正が望まれる。就職支援については、就職合宿や合同企業研究会を催すなど、きめ細かい配慮がなされており、過去数年間、高い就職内定率を維持している。

教育課程を遂行するための教員の配置は適切である。教員の採用については大学、短大

が同一の規程を使用し、同一の基準で審査されている現状は改善する必要がある。また、活発に FD(Faculty Development)活動を行っている。

職員に関しては、基本的な組織編制、採用・昇任・異動などは明確な方針のもとに、適切に行われている。

学長が法人理事を務めることにより、管理運営部門と教学部門との連携が適切になされており、また監事による監査などの職務も適正である。平成 4(1992)年以降、自己点検・評価のための体制が恒常的に構築されており、今回の認証評価についても、自己評価報告書を大学のホームページ上で公開するなどの努力が払われている。

学生定員の未充足や高い人件費比率などにより、過去 5 年間にわたって消費支出比率の均衡を欠いているので、健全な財政基盤の確立が急務である。そのためにも、外部資金の導入の努力は不可欠である。会計処理は適正に行われており、財務状況の公開もホームページに掲載するなどの努力が払われているが、わかりやすい表現など、一層の工夫が望まれる。

教育研究環境に関しては、一部の建物を除いて耐震診断が行われていないことが懸念される。施設の安全確保のための規程の未整備、図書館の閉館時間などの問題は散見されるが、キャンパスアメニティとしての教育環境は概ね整備されている。

大学は図書館や体育館などの施設・設備を開放し、公開講座を実施するなど、物的・人的資源を積極的に社会に提供している。また、総合研究所は地方自治体、地元企業、他大学などと連携して共同研究を行っているほか、冠講座を開設している。概して、地域社会との関係は良好で積極的に行っている。

社会的機関としての組織倫理に関して公益通報、個人情報保護、ハラスメント防止などの体制は確立されているが、より徹底させるために利益相反や公的研究費の管理・監査などに関する規程や「危機管理マニュアル」などの早急な整備が望まれる。

特記事項として掲げられている「八戸大学マイスター制度」「地域におけるフィールドワーク活動」「就職合宿」などは極めて特長ある取組みであり、大学の独自性を強く発揮している。

Ⅲ 基準ごとの評価

基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

【判定】

基準 1 を満たしている。

【判定理由】

大学は建学の精神として「神を敬し、人を愛する」を掲げ、更に「八戸大学は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする」とうたっている。この文言はキャンパス内の施設のいたる所に掲げられているほか、種々の刊行物などにおいても記載され、学内外に示されている。この建学の精神を受けて、基本理念が大学案内や「学生生活ハンドブック」

などに明示されている。

大学の使命・目的についても、学則の第 1 条「総則」に大学全体の目的が、「八戸大学は、カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成することを目的とする」と明示され、更にビジネス学部、人間健康学部のそれぞれの教育目的が規定されている。

基準 2. 教育研究組織

【判定】

基準 2 を満たしている。

【判定理由】

教育研究の基本的な組織は、ビジネス学部と人間健康学部の 2 学部、更に附属機関として図書館と総合研究所が置かれ、大学の使命・目的を達成するための組織として適切に構成され、かつ各組織相互の適切な関連性が保たれている。

教養教育については、従来から教務委員会が企画・検討しており、教養教育の組織上の位置付けや運営上の責任体制は明確ではなかったが、平成 22(2010)年 7 月に「教養教育担当者会議」が設置されている。今後は同会議の組織的な位置付けを明確にするとともに、組織的な取組みを期待したい。なお、教養教育に関わる検討内容としては、今後は、教養教育科目全般について幅広く検討することが望まれる。

教育方針などを形成する組織と意思決定機関として、大学、短期大学合同の「大学運営会議」が設置され、また、教授会、部長会、各種委員会が構成されており、大学の使命・目的及び学習者の要求に対応できるように整備されている。今後、部長会のあり方や各種委員会の情報の共有化や複数の委員会に跨る問題の解決に向けた取組み、更に委員会規程の整備が必要であるが、全体としては十分に機能している。

【参考意見】

- ・教養教育の運営上の責任体制として、平成 22(2010)年 7 月に「教養教育担当者会議」が設置されているが、組織上の位置付けが明らかではないので、今後、これを明確にすることが望まれる。

基準 3. 教育課程

【判定】

基準 3 を満たしている。

【判定理由】

両学部の教育目的は、大学の教育目的及び学生のニーズや社会的需要に基づき設定されている。教養科目には、建学の精神を体現するため宗教関連科目や外国語科目を配置して

おり、専門教育課程の編成方針としては、卒業後の進路として想定される職業との関係や科目間の関連と順次性を基本方針としている。教育目的を達成するため、ビジネス学部では企業経営者や自治体職員を講師として実践的な解説を行う科目を配置するとともに、両学部とも「コース・プログラム」を分類、配置するなど、教育課程や教育方法などに工夫がみられる。

教育課程は、リベラルアーツ、ビジネス学部専門教育科目、人間健康学部専門教育科目、教職課程に分類し、体系的に編成されており、授業科目は教育課程の編成方針に即したものである。1年間の授業期間は定期試験などを含めて35週確保されている。

単位の認定、成績評価基準及び卒業要件については、学則に規定されている。仮進級制度も設け、それぞれ厳正に運用されている。また、履修登録単位数の上限や他大学における既修得単位の認定単位数の上限についても適切に設定されている。

教育内容・方法の特色として、「研究演習」における積極的なフィールドワーク活動や、「八戸大学マイスター制度」を創設し、学生の学習意欲と学内外の活動意欲を高める体制を構築している。また、授業評価アンケートはsemesterごとに行われ、学習効果を検証するための「学生による自己評価」も併せて行われている。

【優れた点】

- ・「八戸大学マイスター制度」を創設し、学生の学習意欲や学内外の活動意欲を高める工夫をしていることは高く評価できる。

基準4. 学生

【判定】

基準4を満たしている。

【判定理由】

学則第1条に掲げられた教育目的に即した人材を受入れるべく、学部ごとにアドミッションポリシーを明確にし、入学者選抜についても多様な入試種別を設けるなどして、適切に行われている。しかしながら、ここ数年にわたって定員の充足率は低迷を続けているので、高大連携の充実や、系列校に積極的に働きかけるなどにより、速やかな改善が期待される。

「カレッジアドバイザー」制度やオフィスアワーなどを活用して、充実した学習支援を行っているが、学生総数に占める退学者・除籍者の割合が高い。

「目安箱」や「学長ポスト」といった制度を設けて、学生の声をくみ上げる努力がなされており、全体として学生の福利厚生や各種サービスは適切に運営されている。

過去5年間、高い就職内定率を維持してきたことは高く評価できる。

【優れた点】

- ・就職のための合宿を行うなど、きめ細かい就職ガイダンスが行われており、その結果、高い就職内定率を維持していることは高く評価される。

基準 5. 教員

【判定】

基準 5 を満たしている。

【判定理由】

設置基準上必要な専任教員数及び教授数を満たしており、専兼比率も問題なく、専任教員が適切に配置されている。

教員の採用については、大学、短期大学ともに同一規程を使用し、同一基準で審査されているが、大学及び短期大学は、それぞれ存立目的を異にしているため、個別の規程・基準を用いて選考することが必要である。

専任教員の週当たりの授業時間数は、両学部ともに、特定の教員に著しく偏っていることはなく、適切である。

教員の教育研究活動を支援するため、個人研究費が適切に配分されている。また、科学研究費補助金の獲得者には特別研究費を支給して研究の質の向上を図るとともに、他の教員の申請への意欲を喚起している。

教育研究活動の向上のために、FD(Faculty Development)活動が「FD 委員会」を中心として活発に行われている。更に、平成 21(2009)年度には外部講師招へいによる講演会の開催や公開授業を実施するなど、FD 活動の更なる向上のために努力している。

教員は、学生授業アンケートの調査結果に対する対応策（授業方法の改善策など）を回答することにより授業方法などの改善に努力している。また、全専任教員の半数以上が公開授業を実施している。

【改善を要する点】

- ・教員の採用について、大学、短期大学とも同一規程を使用し、同一基準で審査されているが、早急に個別の規程を作成し、個別の基準や選考方法を用いるよう、改善が必要である。

基準 6. 職員

【判定】

基準 6 を満たしている。

【判定理由】

平成 22(2010)年度より学務部学務課の 4 担当制を学務課、教務課、学生課、就職支援課、入試広報課の 5 課体制にして、学生の入学から卒業に至るまで一貫した授業支援、学生生活支援、就職支援が行える体制を整備し、業務内容と責任体制をより明確化した組織編制見直しを図った。

職員の採用・昇任・異動については「学校法人光星学院就業規則」「学校法人光星学院一

般職員採用規程」「学校法人光星学院初任給、昇給、昇格等に関する施行細則」の諸規程に沿った明確な手続きに基づき、適正な人員を確保し配置している。

SD(Staff Development)など、職員の資質向上のための研修への取組みは「学校法人光星学院スタッフ・ディベロップメント委員会規程」により組織的に行われている。外部研修のみならず、例えば「学生の満足度調査」を活用した身近なテーマで「職員の意識改革や行動改革を図る」を趣旨に、学内研修会を開催している。

教育研究支援のための事務体制は、法人事務部門と教学事務部門が業務横断的に組織されており、教学組織全般の情報を共有できるように構築されている。また、「大学運営会議」、教授会、部長会及び各種委員会の運営に職員が参画している。

基準 7. 管理運営

【判定】

基準 7 を満たしている。

【判定理由】

大学の目的を達成するために大学及びその設置者の管理運営体制は、主として理事会、評議員会、常任理事会、「大学運営会議」、教授会、部長会、各種委員会のラインで整備され、「学校法人光星学院寄附行為」「学校法人光星学院寄附行為施行細則」の定めにより、適切に機能している。また、監事による監査などの職務についても適切に執行されている。

管理部門と教学部門との連携は、学長が理事として理事会に参画しているなど、教学部門の意思が法人の運営に適切に反映されている。

自己点検・評価を行うために、平成 4(1992)年に「自己点検評価委員会」を発足させ、恒常的な実施体制を整えた。また、全学的見地に立って大学運営の改善・向上に積極的に生かすため、平成 21(2009)年度から同委員会を「認証評価統括本部」に改組し、点検・評価結果の検証及びそれに基づいた必要な措置を講ずる大学評価推進組織として強化を図っている。自己評価報告書については、大学のホームページ上に公開されている。

基準 8. 財務

【判定】

基準 8 を満たしている。

【判定理由】

財務状況については、学生の定員未充足や人件費比率が高い比率で推移していることなどにより、法人全体及び大学単独でも平成 17(2005)年度から平成 21(2009)年度まで 5 年連続で消費支出比率の均衡を欠いた状況が続いている。このため平成 17(2005)年度より「第一次経営改善計画」を策定して、人件費削減について基本方針を立てて進めてきた。また、平成 22(2010)年度以降の 5 年間の「新経営改善計画」を策定し、引続き人件費の抑制及び学生募集・確保、経費削減、借入金の返済などの施策を立案した。これを可及的速

やかに推進し、財政基盤の確立を図ることが望まれる。

会計処理については、監査法人の公認会計士及び監事による定期的な監査を通じ、学校法人会計基準に則り適切に行われている。

財務情報の公開については、ホームページに掲載され、事業報告書には各計算書の解説が加えるなど適切に行われているが、わかりやすい表現及び掲載場所への案内など今後更なる工夫が望まれる。

外部資金の獲得については、過去3年間、共同研究及び受託研究の実施がなく、全学的な意識向上のための取組みが必要である。ただ、総合研究所による企業などの経営相談は積極的に行われている。

【改善を要する点】

- ・学生の定員未充足及び人件費比率が高いことなどに起因して帰属収入で支出を賄っていない状況が数年間続いており、法人全体の財政基盤も安定性を欠いているので、「新経営改善計画」の諸施策を早急に推進して、財政健全化に向けた改善が必要である。

基準9. 教育研究環境

【判定】

基準9を満たしている。

【判定理由】

校地・校舎面積ともに設置基準を十分に満たしている。

教育研究目的を達成するための施設設備については、図書館、体育施設、野外施設（学生駐車場など）、情報環境施設も整備され、適切に維持、運営されている。

施設設備の安全面については、バリアフリー化が不十分な箇所も見られるが、未実施の箇所については、整備計画に基づき順次実施される予定である。しかし、耐震基準適合については、一部の建物を除いて、いまだ耐震診断が実施されていない状況であり、耐震補強計画についても未策定であるので、早急な対応が必要である。また、施設安全確保のための規程が未整備であるため、早急な対応が望まれる。

校舎の全面禁煙及び館内外清掃の徹底など快適なアメニティとしての教育研究環境は整備されている。

【改善を要する点】

- ・耐震診断が必要である建物については、早急に診断を実施して、耐震補強計画を策定することが必要である。また、「新経営改善計画」では、安全性確保への取組みが不十分であり、早急に改修計画を策定し、計画に従った改善が必要である。

基準10. 社会連携

【判定】

基準 10 を満たしている。

【判定理由】

大学は、体育施設、図書館など、大学の有する施設・設備の開放及び総合研究所を窓口とした地域との協力による公開講座開催については積極的に取組んでおり、地域社会に大きく貢献している。

地元の有識者 3 人を総合研究所副所長に委嘱し、地方自治体、地元企業、団体などの関係を構築している。また、大学と八戸工業大学、八戸工業高等専門学校との 3 校間で、「学術交流に関する協定」が締結されているほか、八戸工業大学、八戸短期大学との単位互換制度も設けている。

国際交流については今後、より推進されるよう期待する。

地域をキャンパスとするフィールドワーク活動として、八戸市との連携による水産ブランドの形成、大間町との「オコッペいも」のブランドの形成、地域価値を高めるマーケティング・エデュケーションなどを行っていることにより、地域社会との協力関係が構築されている。

基準 11. 社会的責務

【判定】

基準 11 を満たしている。

【判定理由】

社会的責務を果たすための組織倫理に関する公益通報、個人情報保護、ハラスメント防止、研究倫理など各種規程は制定され、適切に運用されている。

危機管理の体制は「学校法人光星学院危機管理規程」及び「学校法人光星学院危機管理体制について（平成 17(2005)年 4 月 1 日通達）」により対処の方法、連絡体制を明確にしている。また、「八戸大学防火管理規程」により防火管理組織、自衛消防隊組織及び消防訓練について定め、避難訓練を実施している。

大学の教育研究成果の広報活動については、「八戸大学紀要」及び「産業文化研究」を継続的に発行している。また、法人全体の情報発信媒体として中心的な役割を担うホームページをはじめとし、「学院キャンパスだより」「学報」「学院広報」が定期的に発行され、学内の各種情報を公開している。

【参考意見】

- ・危機管理に関わるマニュアルは、現在検討され素案が作成されているが、今後所要の手続きを早急に行い整備するとともに、学生向けにも危機管理に関わる冊子作成、講習会実施、実地訓練などを行うことが望まれる。